

★米が「アラブのNATO」計画を推進＝NNN（非同盟通信）

【ワシントン7月28日】米国とアラブ当局者によると、トランプ政権はイランの拡大に対抗するため、湾岸諸国6カ国にエジプトとヨルダンを加えた諸国との間で、地域の新たな安保・政治同盟を作る計画を密にすすめている。4人の情報筋によると、米政府は各国とミサイル防衛、軍事訓練、テロ対策での協力をより深める、地域経済や外交の結束の強化をめざしている。当局者たちは、この計画をイスラムのスニー派諸国同盟国による「アラブのNATO」と呼んでおり、トランプ政権の発足以来高まっている米イランの緊張をたかめることになりそうだ。

中東戦略同盟（MESA）として知られているこの計画は、10月12、13日にワシントンで予定されているサミットで話し合うことを米政府は望んでいる。ホワイトハウスは、この同盟構想を「地域のパートナーと数カ月にわたって」協議してきたことを確認した。米国筋によると、この安保協定の構想は、今年のトランプ大統領のサウジ訪問以前にサウジ側が提起したが、うまくスタートしなかった。アラブ諸国の関係筋は、計画を再稼働させる動きは知っているとしたが、他の当局者はコメントを拒否した。

ホワイトハウスの国家安全保障局（NSC）のスポークスマンは「MESAはイランの侵略やテロ、過激主義の防波堤の役割を果たし、中東の安定に寄与するだろう」と述べたが、トランプ大統領がサミットを主催するかどうかは確認をされ、計画が10月中旬までにできあがるかどうか不確実性があるとのべた。

米政権は過去に、もっと公式の同盟を計画したことがあったが、失敗している。米国やサウジ、アラブ首長国連邦（UAE）は、イランが手先に行っているグループを通じて他国を不安定化させたり、イスラエルを脅迫して地域を不安定化させていると非難している。同盟はサウジとUAEを中心に米国と協力してイランに対抗していくことになる。同盟がただちにどのようにイランと対抗していくかは不明だが、トランプ政権とスニー派諸国はイエメンやシリアの紛争、さらに石油レーンの防衛で共通の利益をもっている。

イランの高官は「中東の安定確保という口実で、米国とその同盟国が地域に緊張を作り出している」とのべた。また、そういうアプローチはイランと地域の米同盟国との間のギャップを広げることにはしかないと強調した。

同盟構想の大きな障害は、サウジとUAEが13カ月にわたって亀裂を深めているカタールとの関係である。カタールには地域で最大の米空軍基地がある。他のアラブ諸国もカタールはテロを支援していると非難し、カタールは否定している。消息筋の一人は、米国がこの対

立が計画の障害にならないか心配していると語ったが、彼も他の当局者もサウジとUAEはこの対立は同盟の障害にならないと保障をしたと語った。NSCスポークスマンも亀裂は障害にならないとのべた。

米国ファーストを追求するトランプ政権の下で、米国同盟国にたいして世界的な規模で地域の脅威に対抗するため負担をさせようと思っている。UAEのガルガシュ公使は26日、「米英の同盟国にこれ以上頼ることはできないので、UAEは敵と戦うため中東地域に軍隊をさらに展開する用意がある」とのべた。

地域的なミサイル防衛網の設置について米国と湾岸諸国は何年も協議してきたが、結論がでていない。それが軍の共同訓練とともに同盟の目標になるだろうと、計画をよく知る消息筋は語った。

トランプ政権が5月に、イランとの核合意を破棄すると表明して以来、イランとの緊張が高まっている。米国を脅せば、歴史になかった苦痛をもたらす結果になるとトランプ大統領は22日に警告したが、イランはそれを一蹴している。

(了)